

やまゆり

学校だより

令和6年1月31日
80号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育重点目標 「 豊かな心の育成 」

図書館司書の「深澤由美」さんから本を寄贈して頂きました

道志小中学校の図書館司書の「深澤由美」さんから本を寄贈して頂きました。深澤先生は、図書館司書として図書室の経営・運営をしながら、情報教育や調べ学習、読書の推進等の業務を担っています。

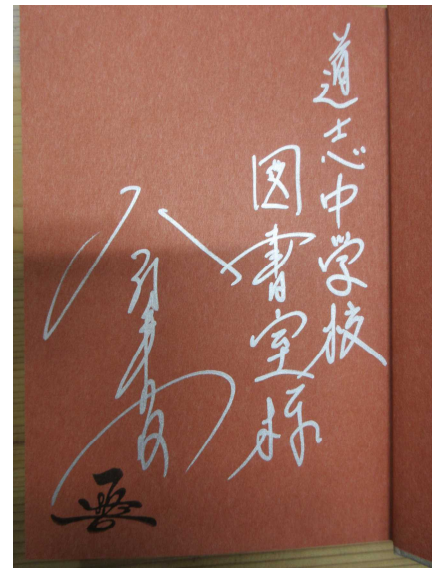
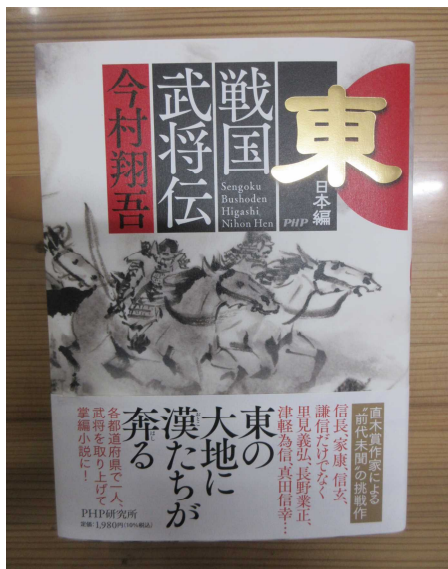
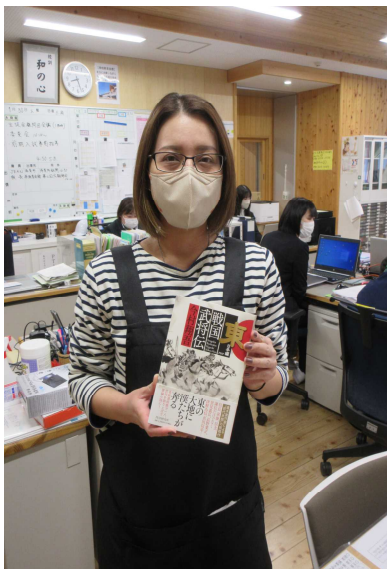
杉本が教諭の頃、由美さんの国語を指導していました。とても読書好きで優秀な生徒でした。作文コンクール等でも優秀な成績を収め、作品が新聞にも掲載されました。表現力やその内容も群を抜く力をもっていたことを良く覚えています。

3年前に校長として赴任したとき、「由美」さんが深澤先生として図書館司書をしていることを知り、「本人の良さを生かした仕事で故郷に貢献している」と思いました。今後も道志村の教育のために大きく貢献して欲しいと思います。歴史小説好きの生徒や、今まで読んだことのない生徒は是非読んで欲しいと思います。また、作者や作品の魅力等を深澤先生から聞いて下さい。

深澤先生、貴重なサイン入りの本を寄贈して頂き、ありがとうございました。

図書館司書の深澤由美先生

寄贈して頂いた「今村翔吾」さんの「戦国武将伝」



学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級・学校づくり」・「確かな学力の育成」

「令和のやまなし教育活動モデル事業」の活動・成果の紹介

令和5年・6年度に、山梨県教育委員会義務教育課の「令和のやまなし教育活動モデル事業」に9月から取り組み始め、3学期は今年度のまとめの時期になっています。

最近の研究や今後の予定等について紹介致します。

本校の研究の特徴や成果

① 「安定と活性度の高い学級集団づくり」

・全国でも珍しい具体的な実践方法を持ち、信頼性と妥当性の高い検査で実証している。

② 「全教職員で全クラスの学級経営と学習指導」に参画している

・担任任せ、学年任せにしない・学年による差を出さない・学習指導の共有化・全校指導（教育の世界では、全国的にも珍しい教育実践方法を採用している）

③ 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習に取り組む、単元内自由進度学習」

・個別最適な学習で標準化検査（WEBQU・NRT・NINO）を活用、協働学習で異学年交流
・山梨県内の中学校では唯一の取り組み。全国でも貴重な中学校の実践。

④ 「実証研究」の推進

・いじめ予防・早期発見・適切な組織対応でいじめ認知100%解消。
・不登校生徒3年間0名。・各学年の学力保証。

研究主任 高村 江里子先生を中心に全職員で「学習に関する」研究をしています



人事異動が多く、若い先生方が多い学校での組織的な実践や成果は貴重なです。



本校の実践の成果は、生徒・教職員が一体となった協働性が大きな要因と思います
本校の研究に対する他校の教職員の声を紹介します ※県内他地区の6校の管理職

- ・校長・管理職のリーダーシップと情熱と工夫が随所に認められる。
- ・個人や集団に対する指導の共有化は難しく、それぞれの先生の実感や経験に頼っているが標準化検査や、面接・観察を通して実態を把握し、組織で適切に指導していることが素晴らしい。一般的には簡単にできない。
- ・多くの場合、若い先生方が実践の根拠や方法に自信が無く、ベテラン頼みの指導になってしまっている。
- ・QUも使ってはいるが、活用しきれていない。読み取りや実践方法の共有が難しい。
- ・学級・学年の指導や成果に差が出てしまう。
- ・指導は、個人や集団に対してではなく、方法論のみ細かく議論してしまっている。
- ・生徒に階層化があっても問題が表面化しなければ、先手の指導はなかなかできない。
- ・単級の弊害はあるが、強みにすることは難しいのが現状である。
- ・安定していて、活性化を両立する学級指導は、ベテランも若い人も経験がない。
- ・人事異動が大きな「小規模校」は、取り組みや成果が継続できない。
- ・学校での一番重要な指導は、児童・生徒の「心理的安全性の確保」であると言われたが、どう実践していくのかが分からず本校では実践できていない。
- ・教職員のモチベーションの高さや協働性についてさらに詳しく知りたい。
- ・研究しても結果や成果を実感できないことが多い。研究のための研究になってしまう。
- ・取り組みや対応すべき生徒に対してすべき指導、その後の変化や追指導が徹底されている。当たり前のようにだが、実践では難しい。
- ・一緒に働き、荒れている学校をいくつも立て直してきたときの情熱が伝わってきました。荒れている学校も、ある程度安定している学校も、さらに次の段階を目指して、協働して改善していることが素晴らしいと思いました。
- ・自校のことで精一杯の教職員において、道志中の生徒や先生方は山梨や日本の教育の課題に正面から対応し、改善している。
- ・教育課題に対する「情熱」、「徹底」、「継続」の三つを学びました。
- ・道志中の生徒も先生方も、志を一つにしてみんなで協働している点が素晴らしいです。一人の優秀な生徒や教職員では、出せない成果だと思います。
- ・標準化検査3回、各週の代表者会等でPDCAサイクルを何度も回転させながら指導を微調整して指導している点が成果に繋がっていると思いました。
- ・大きな問題が無いので、小規模校で安定しているとばかり思っていたことが覆され、大きなショックを受けました。一人一人の階層的序列をなくし、心理的な安定による主体性の確保をめざさなければならないと強く思いました。
- ・やはり、組織の協働性の成果だと思います。生徒・教職員の話し合い、協働実践に学びました。

- ・「学級に居場所をつくる」。当たり前のことのようにですが、考えたことも実践したこともありませんでした。これが基本だと思います。もう一度、学級や班について考え直したいと思います。
- ・標準化検査を活用し、業務の優先順位や適切な方法を共有し、組織指導で教育成果を挙げる考え方と実践方法を学びました。
- ・学校生活における生徒同士の人間関係の良好さや未熟さが、いじめや不登校等の大きな要因とも考えられることに気づきました。
- ・上辺の付き合いでも生活はできますが、本音の感情交流、課題も指摘し合える人間関係間をゴールと考え、指導を組織で継続している学校があることに驚きました。
- ・幼い頃からの生徒間の序列の問題は、本校においても、全国の小規模校にもある問題だと思います。また、大規模校には無いのかというと、確実に存在する問題でもあります。心理的安全性の確保も最重要課題と思いながら、なかなか実践することができない本校においてとても大きな学びでした。
- ・単元で教科の力を育成する「学習キャリアパスポート」と、「座席表」はとても参考になりました。本校でも活用したいと思います。
- ・一年間の1回や2回の研究授業で研究したと思っている教職員も多い中、一年間毎日取り組んで、成果を向上させる実証主義の学校の研究を始めて見ました。
- ・学級の問題を生徒自身に考えさせ、生徒自らが取り組む体制を取りながら、生徒のルールや人間関係を構築していることが分かりました。管理的な指導をしてもQUは100%になりますが、生徒の主体性を向上させながら満足度を向上させることは本質だと思います。
- ・生徒指導に関しても、生徒自身の問題として捉えさせ、謝罪や叱責ではなく、自分事として今後どうすべきかを主体的に考えさせる指導は、とても参考になりました。
- ・同調と付度ではなく、ただ行事や活動が楽しければ良いのではなく、挑戦しながら成長させる活動を繰り返して、集団を低下させないように工夫している点が参考になりました。
- ・一般的な良い指導や言葉がけではなく、本人や集団に適切な指導を組織ですることの重要性が分かりました。
- ・自己満足のQUの高さは、挑戦によって本物の満足に変えていくことが必要とのお話も参考になりました。

○昨年12月に指導を要請された学校からの声

- ・3学期のスタートに当たり、学級・班・目的・目標等の意味について、教職員・生徒共に話し合い、理想に向かって皆で努力しながらスタートすることが出来ました。
- ・4人班をつくり、生徒の目標に向かって毎日努力しています。この活動を通して、人間関係とルールを定着し、自分たちで良い班や学級を創り上げたいと思います。
- ・個別最適・協働的な学習に挑戦したいと思います。道志中の実践を今後も教えて下さい。

1月28日に早稲田大学の研究会に参加した高村研究主任

本校の実践も紹介しました

